



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、『スパークス・少数精鋭・日本株ファンド』は、
このたび、第8期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド受益証券を通じて、株価と実態価値が大幅に乖離(バリュエギャップ)している日本企業を中心に20~40社程度に集中投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

< お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス
リテールBDマーケティング部
電話：03-6711-9200(代表)
受付時間：営業日の9時~17時
ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

< 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「スパークスの投資信託」より「投資信託一覧」の当ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

交付運用報告書

スパークス・少数精鋭・ 日本株ファンド

追加型投信/国内/株式

第8期(決算日 2021年8月25日)
作成対象期間(2020年8月26日~2021年8月25日)

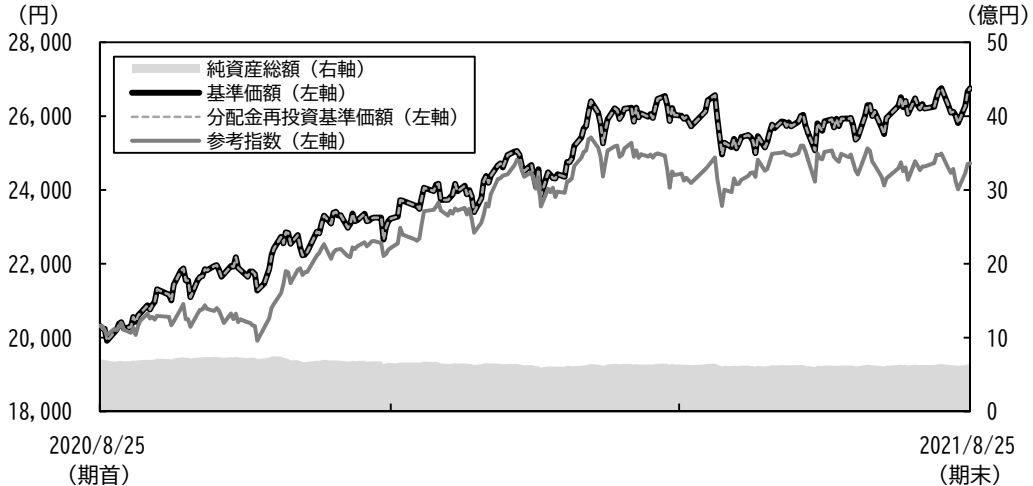
| 第8期末 (2021年8月25日) | |
|--------------------------------|---------|
| 基準価額 | 26,751円 |
| 純資産総額 | 640百万円 |
| 第8期 (2020年8月26日~2021年8月25日) | |
| 騰落率 | 31.6% |
| 分配金合計 | 0円 |

(注) 騰落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

運用経過

■ 基準価額等の推移 (2020年8月26日～2021年8月25日)

基準価額は期首に比べ31.6%(分配金再投資ベース)の上昇となりました。



第8期首：20,320円

第8期末：26,751円(既払分配金0円)

騰落率：31.6%(分配金再投資ベース)

- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ 当ファンドにベンチマークはありません。参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。
- ※ 参考指数は期首(2020年8月25日)の基準価額に合わせて指数化しております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド(以下、マザーファンドといいます。)を通じて、日本の株式に投資をしております。

マザーファンドは、ボトムアップ・リサーチを通じて、株価と実態価値が大幅に乖離(バリュギャップ)していると判断される銘柄に絞り込んで投資をしました。当期は、業績を大きく拡大したコンサルティング企業や、ファインセラミックスメーカーなどが底堅い決算を発表したことなどが好感されました。一方で、業績予想が株式市場の期待を下回った農薬メーカーや、業績動向が低調であった通信計測機器メーカーの株価が下落しました。当期の基準価額は市場を上回る結果となりました。

■ 1万口当たりの費用明細

| 項 目 | 当期 2020年8月26日～2021年8月25日 | | 項 目 の 概 要 |
|----------------------------|-----------------------------|--------------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) | 485円 (262) | 2.037% (1.100) | (a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 ・購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ・ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| (販 売 会 社) | (210) | (0.882) | |
| (受 託 会 社) | (13) | (0.055) | |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) | 11 (11) | 0.046 (0.046) | (b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・有価証券等を売買する際に発生する費用 |
| (c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) | 26 (4) | 0.109 (0.017) | (c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・法定書類等の作成、印刷費用 |
| (印 刷 費 用) | (22) | (0.092) | |
| 合 計 | 522 | 2.192 | |
| 期中の平均基準価額は23,818円です。 | | | |

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

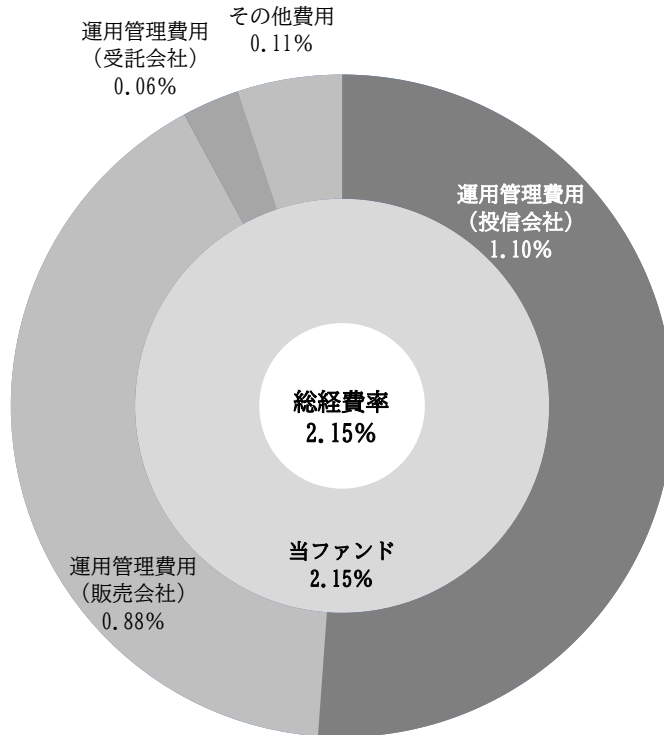
(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.15%です。



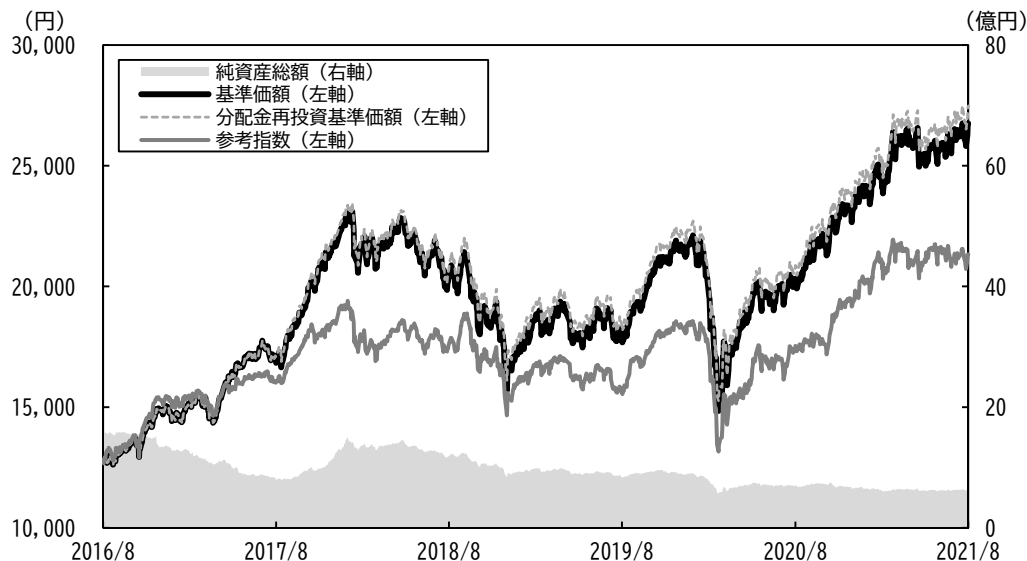
(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移 (2016年8月25日～2021年8月25日)



- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ 参考指数は2016年8月25日の基準価額に合わせて指数化しております。

| | 2016/8/25 決算日 | 2017/8/25 決算日 | 2018/8/27 決算日 | 2019/8/26 決算日 | 2020/8/25 決算日 | 2021/8/25 決算日 |
|-------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 基準価額 (円) | 12,833 | 16,836 | 20,536 | 17,685 | 20,320 | 26,751 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 250 | 250 | 0 | 0 | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 33.1 | 23.5 | △13.9 | 14.9 | 31.6 |
| 参考指数騰落率 (%) | — | 25.1 | 10.6 | △12.5 | 12.8 | 21.7 |
| 純資産総額 (百万円) | 1,585 | 794 | 1,201 | 835 | 703 | 640 |

- ※ 参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。
- 参考指数の詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

■ 投資環境

当期の日本株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大が続いたことや、米中対立が世界経済への重荷となることが懸念され、一進一退でのスタートとなりました。その後、新型コロナウイルスのワクチンの実用化や、世界的な低金利政策が維持されることへの期待、堅調な企業業績などを好感し、上昇基調となりました。

2021年に入ると、米国で民主党のバイデン政権が本格的に稼働し、米国の追加経済対策への期待が高まり、日本株式市場は上昇を強めました。その後、先進国を中心にワクチン接種が進むと、世界経済の回復から、米国では長期金利やCPI(消費者物価指数)が上昇し、株式市場ではリスク回避の動きが強まりました。

日本国内では新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が繰り返されました。期末にかけては、半導体不足から自動車の減産が決定されるなど、日本株式市場は上値の重たい状況で当期を終えました。

■ ポートフォリオ

< スパークス・少数精鋭・日本株ファンド >

当ファンドは、主としてマザーファンドを通じて、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本としています。マザーファンドの組入比率は高水準を維持しました。

< スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド >

マザーファンドではボトムアップ・リサーチに基づき、逆張りの発想で、徹底した調査から、株価と実態価値が大幅に乖離(バリュエギャップ)している企業を中心に投資を行いました。

当期中に新規に組入れた主な銘柄は

- ① 市場参加者が注目していないために株価が割安に放置されていた銘柄
具体的には、コールセンターを運営するダイレクトマーケティングミックスや、セラミック部品・マグネシウムを製造する神島化学工業などが上げられます。
- ② 短期的な業績不振など、市場に嫌気される要因があって割安に放置されていた銘柄
具体的には、無線通信向け計測機器大手であるアンリツや、転職人材紹介会社であるMS-Japanなどが上げられます。

一方、売却した銘柄には

- ① 目標株価に到達した銘柄
具体的には、ベンチャーキャピタル大手企業のジャフコグループなどが上げられます。
- ② 当初想定していたような業績拡大が見られなかった銘柄
具体的には、通信機器計測器メーカーのsantecや、鉄道信号機メーカーの日本信号などが上げられます。

(主なプラス要因)

当期のパフォーマンスにプラスに貢献した主な銘柄はベйкаレント・コンサルティング、MARUWAなどです。

ベйкаレント・コンサルティングは、IT系コンサルティングに強みを持つ総合コンサルティングファームです。当ファンドでは、働き方改革や、人手不足による労働生産性改善ニーズの高まりから、ITコンサルのニーズが拡大していることに注目し、投資しております。当期、同社はファンドのパフォーマンスにプラスに貢献しました。2021年2月期決算が好調であったことに加え、2022年2月期第1四半期決算も、営業利益が前年同期比+67.2%となったことなどが好感されました。引き続き、同社には追い風が吹いていると思いますが、慎重に業績をモニターしていきたいと考えております。

MARUWAは、セラミック加工技術を軸にした、電子機器向け素材・部品メーカーです。ニッチな分野ですが高い世界シェアを持っています。当ファンドでは、自動車の電装化を筆頭に、様々な電子機器における放熱需要の増大に伴う、売上拡大を期待し投資しております。当期、同社の株価はファンドのパフォーマンスにプラスに貢献しました。2021年4月に本決算が発表され、営業利益は前年度比+9.7%で着地しました。新型コロナウイルスが感染拡大し、経済活動が低調な中、2桁に近い増益が達成できました。その後に発表された2022年3月期第1四半期決算でも、営業利益が前年同期比+47.7%であったことなどが好感されました。当ファンドでは、中長期で見れば、電気自動車の増加と共に、同社の業績は成長できると考えております。

(主なマイナス要因)

当期のパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄はクミアイ化学工業、santecなどです。

クミアイ化学工業は、農薬の国内大手企業です。当ファンドでは、同社が製造する畑作用除草剤に注目しています。当期、同社はファンドのパフォーマンスにマイナスに影響しました。2020年12月中旬に、2020年度決算実績、および2021年度業績予想を発表しましたが、実績は会社計画にほぼ沿った内容でありサプライズはありませんでした。一方、2021年度業績予想は-11.9%の営業減益となっており、市場に嫌気されました。また、6月に通期業績予想を上方修正しておりますが、上期決算の実績は-3.5%の営業減益で終わっており、下期に回復する会社計画に対して、不安を残す結果であったと当ファンドは考えます。引き続き、業績を慎重にモニターしていきたいと思えます。

santecは、光ファイバー用の光通信部品、光計測器の大手企業です。当ファンドでは、計測器は世界シェア30%で2位と推測しており、世界的なデータ通信量増大の恩恵を受けると判断し、投資しました。2021年5月に本決算が発表されましたが、2020年度実績は前年比+51.8%の営業増益と好調でした。一方、2021年度業績予想は前年比+2.0%の営業増益に留まっており、株式市場に嫌気されました。また、米中対立が強まっており、中国向けビジネスの先行きに懸念が広がっています。当ファンドでは、長期では同社の業績拡大は期待できるものの、中期的な視点では、他企業へ投資した方が、ポートフォリオのリスク・リターンが改善すると判断し、当期中に保有株式を全て売却いたしました。

〔 組入上位10銘柄 〕

前期末(2020年8月25日)

| | 銘柄名 | 比率(%) |
|----|------------------|-------|
| 1 | MARUWA | 8.6 |
| 2 | バイカレント・コンサルティング | 7.6 |
| 3 | クミアイ化学工業 | 6.8 |
| 4 | エフピコ | 5.0 |
| 5 | TOTO | 4.9 |
| 6 | 三浦工業 | 4.7 |
| 7 | シップヘルスケアホールディングス | 4.5 |
| 8 | 全国保証 | 3.6 |
| 9 | ニチハ | 3.5 |
| 10 | 関東電化工業 | 3.2 |

当期末(2021年8月25日)

| | 銘柄名 | 比率(%) |
|----|------------------|-------|
| 1 | MARUWA | 7.9 |
| 2 | バイカレント・コンサルティング | 6.0 |
| 3 | TOTO | 4.8 |
| 4 | 全国保証 | 4.6 |
| 5 | マックス | 4.2 |
| 6 | クミアイ化学工業 | 4.0 |
| 7 | ニチハ | 3.8 |
| 8 | 日本エム・ディ・エム | 3.8 |
| 9 | シップヘルスケアホールディングス | 3.7 |
| 10 | 竹内製作所 | 3.6 |



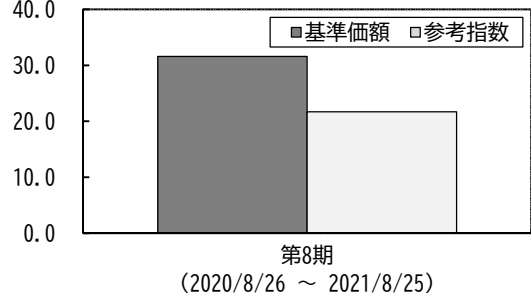
※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

■ ベンチマークとの差異

- ※ 当ファンドはベンチマークを設けておりません。
右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ※ 参考指数は、「TOPIX(配当込み)」です。

当ファンドの基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)
(%)



(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

■ 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準、市場動向等を勘案して、分配を見送らせていただきました。なお、留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

〔 分配原資の内訳 〕

(単位：円 1万口当たり・税込み)

| 項目 | 第8期 (2020年8月26日～ 2021年8月25日) |
|--------------------|------------------------------------|
| 当期分配金 (対基準価額比率) | — (—%) |
| 当期の収益 | — |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 16,751 |

- (注1) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注2) 該当欄に数値がない場合は「—」、小数点以下のみの数値の場合は「0」にて表示します。
- (注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

< スパークス・少数精鋭・日本株ファンド >

マザーファンドの組入比率は、引き続き高水準を維持し、信託財産の中長期的な成長を目標に運用を行います。

< スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド >

今後の運用方針といたしましては、引き続きボトムアップ・リサーチを通じ、株式市場が注目していない企業群の中から、成長性のある企業を発掘し投資するアプローチを継続していきます。この投資アプローチのリターンの源泉は、投資先企業の将来の利益成長に対して株価が割安である点です。その意味で、バリュウ(割安株)投資となります。そして同時に利益成長も考慮に入れているという意味でグロース(成長株)投資にもなります。2021年に入ってから、米国の景気回復・金利動向の変化をベースに、バリュウ相場、グロース相場といった議論が続いています。極端な例では、来月がバリュウ相場かグロース相場かを予想し、投資先企業を変えているケースもあるようです。当ファンドは「バリュウ相場だから、グロース相場だから、XXX社に投資する」ことはありません。個々の企業を調査分析し、株式市場が折り込み切れていない利益成長を見出し、株価が割安と判断された場合に投資するアプローチを徹底・継続していきます。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

2021年5月26日付で下記の通り投資信託約款の変更をいたしました。

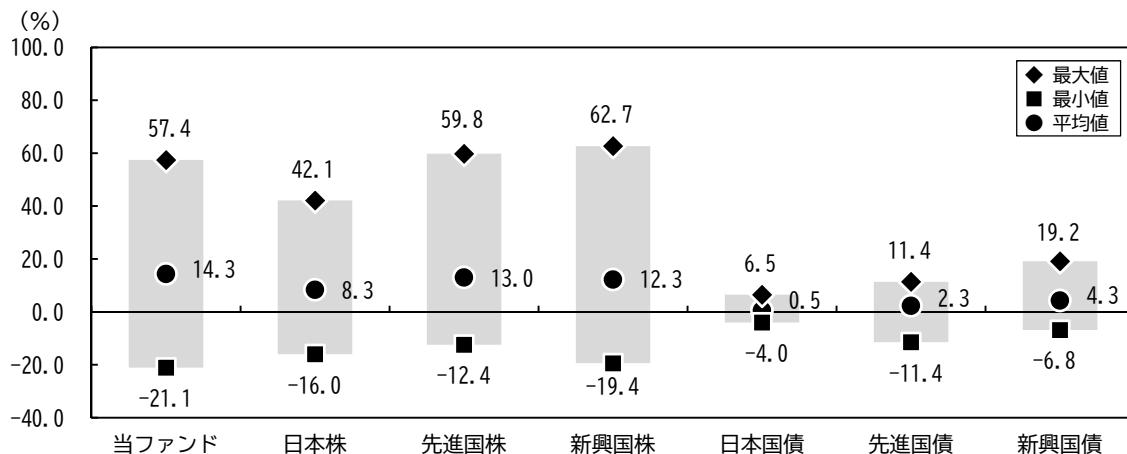
- ・当ファンドの信託期間を10年延長するため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

当ファンドの概要

| | | |
|------------|---|--|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 | |
| 信託期間 | 2013年8月30日から2033年8月25日まで | |
| 運用方針 | 信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行うことを基本とします。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。 |
| | スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド | 金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。 |
| 当ファンドの運用方法 | 主としてスパークス・少数精鋭・日本株マザーファンドへの投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している株式の中から、ベンチマークや業種にとらわれず、市場価値と独自の分析に基づく本質的な価値との乖離(以下「バリュウギャップ」といいます。)が大きく、魅力的と判断した中小型株式銘柄群を中心に、20銘柄から40銘柄程度に集中投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して、積極的な運用を行います。 また、株式市場の状況によって、大型銘柄により多くの投資機会があると判断される場合には、大型株式銘柄にも積極投資します。 | |
| 分配方針 | 毎決算時に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。 | |

(参考情報)

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較 (2016年8月末～2021年7月末)



(注1) 2016年8月～2021年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注2) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注3) 当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

(注4) 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

* 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

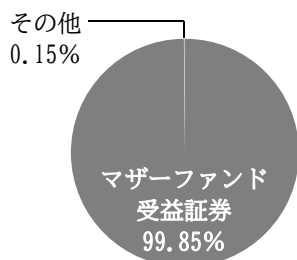
当ファンドのデータ

■ 組入資産の内容 (2021年8月25日現在)

< 組入ファンド >

| ファンド名 | 第8期末 |
|-----------------------|--------|
| スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド | 99.85% |
| 組入銘柄数 | 1ファンド |

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

| 項 目 | 第8期末 2021年8月25日 |
|------------|--------------------|
| 純資産総額 | 640,384,833円 |
| 受益権総口数 | 239,384,122口 |
| 1万口当たり基準価額 | 26,751円 |

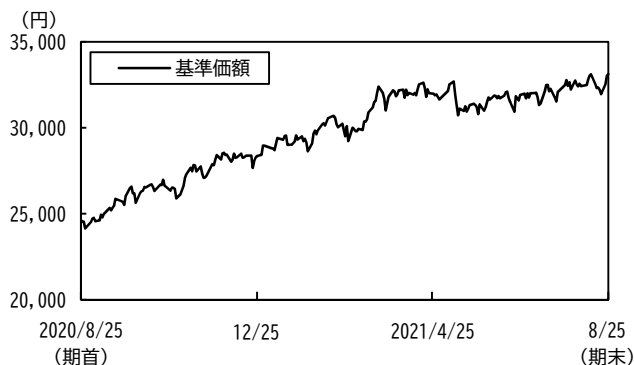
(注) 当期中における追加設定元本額は39,457,274円、同解約元本額は146,259,494円です。

■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容

【スパークス・少数精鋭・日本株マザーファンド】（2021年8月25日現在）

< 基準価額の推移 >

（2020年8月26日～2021年8月25日）



< 組入上位10銘柄 >

| 順位 | 銘柄名 | 業種 | 比率(%) |
|-------|------------------|----------|-------|
| 1 | MARUWA | ガラス・土石製品 | 7.9 |
| 2 | ペイカレント・コンサルティング | サービス業 | 6.0 |
| 3 | TOTO | ガラス・土石製品 | 4.8 |
| 4 | 全国保証 | その他金融業 | 4.6 |
| 5 | マックス | 機械 | 4.2 |
| 6 | クミアイ化学工業 | 化学 | 4.0 |
| 7 | ニチハ | ガラス・土石製品 | 3.8 |
| 8 | 日本エム・ディ・エム | 精密機器 | 3.8 |
| 9 | シップヘルスケアホールディングス | 卸売業 | 3.7 |
| 10 | 竹内製作所 | 機械 | 3.6 |
| 組入銘柄数 | | 33銘柄 | |

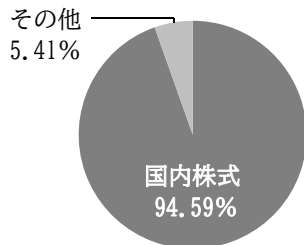
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

< 1万口当たりの費用明細 >

| 項目 | 当期 2020年8月26日～2021年8月25日 | |
|----------------------|-----------------------------|--------------------|
| | 金額 | 比率 |
| (a) 売買委託手数料 (株 式) | 13円 (13) | 0.045% (0.045) |
| 合計 | 13 | 0.045 |

期中の平均基準価額は29,181円です。

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、2ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2021年8月25日現在のものです。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別配分は、発行国を表示しています。

指数に関して

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

日本国債：NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社およびその許諾者に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。